

1 学年 算数科 単元指導計画

単元名 たしざん 主教材：「たしざん」 (東京書籍 1 年)		日	時	令和 5 年 1 0 月 2 5 日 (水) 5 時間目		
		対 象 学 級		遠野北小 1 年 1 組 (2 6 名)		
		授 業 者		教 諭 菊池 琴美		
1 単元の目標						
〔知識及び技能〕		〔思考力、判断力、表現力等〕		「学びに向かう力、人間性等」		
1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算が、「10 といくつ」という数の見方を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできる。		10 のまとまりに着目し、1 位数どうしの加法計算の仕方を、操作や図を用いて考え、表現することができる。		数量や図形に親しみ、算数で学んだことよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。		
2 単元で取り上げる「数学的活動」						
算数の問題を具体物などを用いて解決したり結果を確かめたりする活動。						
3 単元の評価規準						
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算が、「10 といくつ」という数の見方を基にしてできることを理解し、その計算を確実にしている。		10 のまとまりに着目し、1 位数どうしの加法計算の仕方を、操作や図を用いて考え、表現している。		1 位数どうしの加法計算の仕方について、「10 といくつ」という数の見方や操作、図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。		
4 単元の指導と評価の計画 (全 10 時間)						
時間	目標	学習活動	知 技	思 判 表	態 度	評価規準〔評価方法〕
① 9 + 4 のけいさん						
1	○ 1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加法を分解して計算する方法(加数分解)を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面をとらえ、立式し、答えを求める。 ・既習の加法計算を振り返る。 ・問題を把握し、立式する。 ・9 + 4 の答えをブロック等を用いて求め、課題をとらえる。 ・9 + 4 の計算の仕方をブロックを用いて考える。 ・9 + 4 の計算の仕方を説明する。 ・加数分解による計算方法をおさえる。 ・練習問題に取り組む。 	○	◎		9 + 4 などの計算の仕方を、数の見方(10 といくつ)を活用して、操作や図を用いて考え、説明している。〔発言・記述〕
2						
3	○ 前時までの学習を踏まえ、1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法の理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題をとらえ、8 + 3 の計算の仕方を考える。 ・8 + 3 の計算の仕方を説明する。 ・練習問題に取り組む。 ・学習のまとめをする。 	◎	○		「10 といくつ」という数の見方を基にした 8 + 3 などの計算の仕方を理解し、その計算ができる。〔発言・記述〕
4			<ul style="list-style-type: none"> ・練習問題に取り組む。 ・問題場面を把握して立式し、答えを求める。 	◎		

② 3 + 9のけいさん					
5 本 時	○1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法(被加数分解)があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 課題をとらえる。 3 + 9の計算の仕方を説明する。 被加数分解、加数分解の計算の仕方を統合的にとらえ、まとめる。 		◎	被加数、加数の大小に関係なく、10のまとまりをつくることに着目して、計算の仕方を考え、操作や図などによって説明している。[発言・記述]
6		<ul style="list-style-type: none"> 練習問題に取り組む。 問題場面を把握して立式し、答えを求める。 	◎	○	1位数どうしの繰り上がりのある加法計算は、10のまとまりをつくれればよいことを理解し、その計算ができる。[発言・記述]
③ かあどれんしゅう					
7 ・ 8 ・ 9	○加法の計算能力を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> 計算カードを順序よく並べ、できるようになった計算を確かめる。 計算カードを使って、1人で計算の練習をする。 計算カードを使ったいろいろなゲームに取り組む。 答えが同じカードを順序よく並べて、並び方のきまりに関心をもつ。 	◎	○	1位数どうしの繰り上がりのある加法計算が確実にできる。[発言・記述]
まとめ					
10	○学習内容の定着を確認するとともに、単元で学習したことよさを感じ価値付ける。	・「たしかめよう」の問題に取り組む。	○	◎	単元の学習で考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じている。[発言・記述]
5 めざす資質・能力とその手立て					
自分の考えをもち表現する					
<p>「自分の考えをもつ」 前時の既習内容を確認することで、10のまとまりをつくと解けそうだと気づき、本時ではどのように10のまとまりをつくれればよいのか考える姿。 〈既習と結び付ける、解決方法の見通しをもつ〉</p> <p>「自分の考えをもち表現する」 自力解決で、ブロック操作やさくらんぼ計算を書くことを通して自分の考えを表現する姿。 ペア交流で、ホワイトボードに表した自分の考えを友達に見せたり話したりして説明する姿。 〈操作(動作)しながら書く・話す・説明する〉</p>					
6 「2つの視点」による授業改善					
視点1「課題意識の持続」			視点2「達成状況の把握」		
① 計算の仕方を考えることだけでなく、友達に解き方を説明することが本時のゴールであることを共有し、見通しをもたせる。 〈1時間の見通しをもつ(ゴールを示す)〉			① 自力解決と学び合いの場面において、机間指導をしながら児童の考えを把握し、座席表に児童の考えを記入する。 〈達成状況把握の手立ての明確化〉		

② 見通しをもつ場面において、たまごの模型を提示し、どのように10のまとまりをつくるかを考えさせる。被加数を分解して10のまとまりをつくと簡単に解けそうだと気付かせ、課題解決の見通しをもたせる。方法の見通しとして、既習内容を想起させて、ブロックやさくらんぼ計算の方法で考えることを確認する。
<1時間の見通しをもつ(ゴールを示す)>

7 本時の展開

(1) 目標
1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法(被加数分解)があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。[思考・判断・表現]

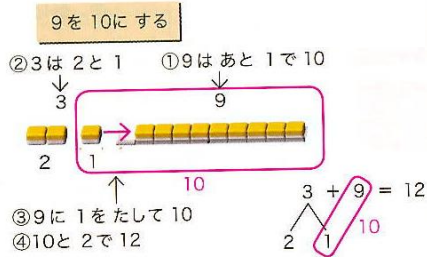
(2) 本時の評価規準

評価規準	概ね満足できる	努力を要する児童への手立て
被加数、加数の大小に関係なく、10のまとまりをつくることに着目して計算の仕方を考え、操作や図などによって説明している。[発言・記述]	10のまとまりをつかって、計算することができる。	学び合いの場面において、友達のことを見たり聞いたりさせることで理解を促す。

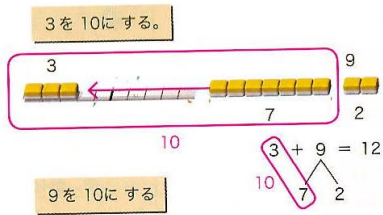
(3) 展開

階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点【視点①②】と評価
導入 8分	1 問題をとらえ、立式する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ことみ先生はたまごを3こもっています。校長先生はたまごを9こもっています。たまごは合わせてなんこですか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・立式後、前時の問題との違いを明確にするため、前時で扱った$9+4$や$8+3$と比べる。 ・前時では前の数の方が大きかったが、本時では後ろの数の方が大きいことに気付かせる。
	2 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> うしろのかずが おおきいときの たしざんのしかたを かんがえよう。 </div>	【視点1：課題意識の持続①】 計算の仕方を考えることだけでなく、友達に解き方を説明することが本時のゴールであることを共有し、見通しをもたせる。
展開 30分	3 課題解決の見通しをもつ。 (1) 内容の見通しをもつ。 →10のまとまりをつかって計算をする。 →どちらを分解したらよいかを考えさせる。 (2) 方法の見通しをもつ。 →ブロック、さくらんぼ	【視点1：課題意識の持続②】 見通しをもつ場面において、たまごの模型を提示し、どのように10のまとまりをつくるかを考えさせる。被加数を分解して10のまとまりをつくと簡単に解けそうだと気付かせ、課題解決の見通しをもたせる。方法の見通しとして、既習内容を想起させて、ブロックやさくらんぼ計算の方法で考えることを確認する。 資・能：自分の考えをもつ場面 前時の既習内容を確認することで、10のまとまりをつくと解けそうだと気づき、本時ではどのように10のまとまりをつくれればよいのか考える姿。
	4 課題を解決する。 (1) 自力解決をする。(5分) ・ブロックやさくらんぼ計算を用いて考え、ホワイトボードに自分の考えを記入する。 (2) 考えを交流し合う。 ・ペアで自分の考えを交流する。 (3) 全体に考えを発表する。 ・意図的に指名し、児童の考えを発表してもらう。	資・能：自分の考えを表現する場面 自力解決で、ブロック操作やさくらんぼ計算を書くことを通して自分の考えを表現する姿。 ペア交流で、ホワイトボードに表した自分の考えを友達に見せたり話したりして説明する姿。 ・説明に困っている児童のために、前時で活用した話形カードを壁面に掲示する。話形通りでなくても、自分の考えをブロック操作を用いながら話している姿を認める。

5 考えを整理する。
〔被加数分解の場合〕



〔加数分解の場合〕



6 まとめる。

うしろのかずで10のまとまりをつくるほうほうもある。

【視点2：達成状況の把握①】

自力解決と学び合いの場面において、机間指導をしながら児童の考えを把握し、座席表に児童の考えを記入する。

【思・判・表】

被加数、加数の大小に関係なく、10のまとまりをつくることに着目して計算の仕方を考え、操作や図などによって説明している。〔発言・記述〕

- ・加数分解と被加数分解のどちらの場合でも考え方を確かめ、考え方の共通点を考えることで、10をつくるために分けていることや10と2になること、10のまとまりをつくっていることに気が付くことができるようにする。
- ・児童と一緒にブロックの動かし方を確かめ、ワークシートに被加数分解のさくらんぼ計算を書く。

7 学習を振り返る。

- ・花丸、◎、○、△で振り返る。
- ・まえのかずをわけてもいいとわかった。
- ・友達の考えが良いと思った。

8 板書計画等

10/25

たまごはあわせてなんこ？



しき $3 + \textcircled{9} = 12$
↑おおきい

㊦ うしろのかずがおおきいときのたしざんのしかたをかんがえよう。

㊧ うしろのかずで10のまとまりをつくるほうほうもある。

ひとり ペア

こたえ 12こ

⑨ + 4
⑧ + 3
↑おおきい

まえをわける

1つごかすだけでかんたん！

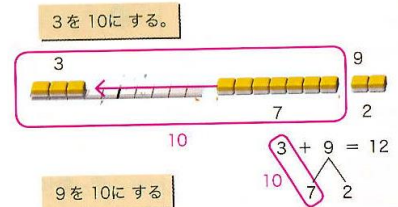
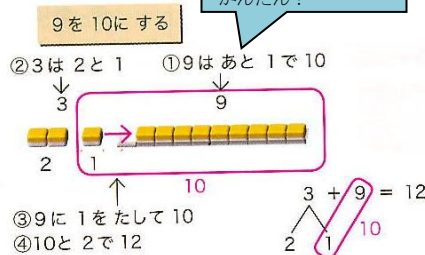
うしろをわける

㊦ ブロック さくらんぼ

10のまとまりをつくる



どちらを10にする？



㊧